第１学年３組　生活科学習指導案

第２校時　　場所　１年３組教室　　指導者　芦原　玲子

１　単元名　はじめましてねんちょうさん

学習指導要領において、生活科が低学年での教育の中核を担うことが明確に示されており、幼児期の教育及び中学年以降の教育と円滑な接続を図ることが求められている。中でも、年長期（５歳児）から小学校１年生までの２年間の「架け橋期」は、生涯にわたる学びや生活の基盤をつくる上で重要な時期であり、この時期の教育を充実させることが課題されている。遊びや生活を通して総合的に学んでいく幼児期の教育と各教科等の学習内容を系統的に学ぶ児童期の教育は大きく異なるが、そのつなぎ目を滑らかにし、子どもたちの幼児期での育ちや学びを小学校でさらに伸ばしていくことが必要である。

本実践では、年長児とともに活動し継続的な関わりを通して関係性を築いていく中で、気付きの質を高めながら、相手の立場に立って考えることや互いに歩み寄ることの大切さを感じ、自分自身の成長や相手のよさに気付くことをねらいとしている。子どもたちは自己中心性の強い発達段階にいることもあり、自分の意見を一方的に押し付けてしまったり自分のしたいことを最優先にしてしまったりすることも少なくない。そのような子どもたちだからこそ、年長児と関わることによって互いの違いを認める大切さに気付いたり、自分の考えや思いが伝わる喜びや相手のことを理解できる喜びを感じたりすることが必要であると考える。

２　単元について

⑴　本単元は、年長児と継続的に関わりながら関係性を築いていく上でのスタートにあたるものである。クラスには、昨年度附属幼稚園の年長児として約半年間にわたって１年生と関わってきた子どもたちが１３名いる。一方で、他の子どもたちはそうした経験がないため、交流に対するイメージがない状態である。また、附属幼稚園の出身であっても「１年生といっしょに遊んだ」という捉えをしている子どもたちが多く、活動の意味や１年生の思いや努力については気が付いていない。

そこで、今回「どのような交流にしたいのか」や「年長児とどのように関わっていきたいのか」を考え、計画を立てる活動を設定する。現時点での子どもたちは、交流に対する捉えに違いがあったり交流が何なのか分からなかったりする等、差が大きい状況である。何のために交流するのか、どのような交流にしていきたいかといった目的や見通しを明確にし、思いや願いを具体的にしていくことが必要となる。年長児とどのような関係になりたいか試行錯誤を重ねながら、年長児と繰り返し関わることを通して、関わることのよさやたのしさを感じられる子どもたちの姿を目指していきたい。

⑵　幼児期から低学年期の子どもたちの課題として、道徳性や社会性の芽生えとなるような遊びを中心にした体験活動に取り組むこと、集団や社会のルールを守る態度や規範意識の基礎を形成すること等が挙げられている。両者が継続的に関わることによって、相手の思いに耳を傾けることやそれぞれの違いを認める大切さに気付くことができるのではないだろうか。そうした気付きを得て関わり方を模索していくことによって、人と関わることを肯定的に捉えたり人と関わるよさやたのしさを感じたりすることへつながると考えられる。

また、互いの考えや思いを伝え合う活動を通して身近な人々と関わるよさやたのしさを感じたり相手のことを理解したりすることは、２年生での地域に暮らす人や働く人たちとの関わりや３年生以降の総合的な学習の時間における多様な人たちとの関わりへとつながる。

⑶　本単元に関する子どもたちの実態は次の通りである。(調査人数３６人)

交流については、全員の子どもがたのしみにしている。これまでに、附属幼稚園以外で年長児の頃に小学生と交流した経験がある子どもは２名である。いずれも、一度だけ小学校に行き、小学生といっしょに遊んだり学校のことを教えてもらったりしている。

３　単元の目標

⑴　年長児と関わる中で、自分の伝えたいことが伝わることや相手の伝えたいことが理解できることのよさやたのしさに気付くことができる。

⑵　年長児のことを考えながら、伝え方や遊び方等を工夫することができる。

⑶　年長児のことを理解しようと努力し、進んで関わろうとしている。

４　指導計画（８時間取り扱い）

時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法等
1 〜 4	1　年長児との交流について計画を立てる。	○　昨年度の年長児と１年生が活動している写真や動画を提示したり、附属幼稚園出身の子どもたちに経験を話させたりすることによって、交流に対する意欲を高めることができるようにする。 ○　交流に対する捉えの差や疑問があることから、昨年度交流をしていた２年生から話を聞く場を設定することで、疑問を解決したり交流のイメージをもったりすることができるようにする。 ○　２年生から聞いた話を基に、年長児と関わる際に大事にしていたことを確かめることによって、自分たちはどのような交流にしていきたいか考えることができるようにする。（４／８本時）	【主】自分が年長児のときのことを振り返ったり、年長児のことを想像したりしている。 （観察・発言） 【思】年長児のことを考えながら、交流の計画を考えている。 （発言・ノート）
5 〜 7	2　年長児との出会いに向けて準備をする。 (1)年長児としたいことを考える。 (2)年長児と出会う。	○　年長児と年長担任の写真や年長児が活動する写真を教室内に掲示しておいたり、年長児と１年生のグループをつくっておいたりすることで、相手意識がもてるようにする。 ○　年長児といっしょに何をしたらいいか考えていく中で「仲よくなりたい」「喜んでもらいたい」といった子どもたちの思いを取り上げることで、実現するためにはどうすればいいか考えることができるようにする。	【思】年長児といっしょに何をするか、これまでの経験や友達の意見を基にしながら考えている。 （観察・発言） 【知】年長児と関わる中で、伝えたいことが伝わったり相手のことが分かったりするよさに気付いている。（観察・発言）
8	3　活動を振り返る。	○　年長児の感想を年長担任から伝えてもらったり、活動時の年長児の発言や様子を想起させたりすることで、よかった点や課題に気付くことができるようにし、これからの交流につながるようにする。	【思】自分たちの関わり方を想起したり年長児の姿を考えたりしながら、活動を振り返っている。 （発言・ノート）

５　本時の学習

⑴　目標

昨年度交流をしていた２年生から聞いた話を振り返ることで、自分たちはどのような交流にしたいかを考え、計画についてアイデアを出すことができる。

⑵　展開

時間	学習活動	学習する子どもの思い・姿
10	1　前時までの学習を振り返り、交流の方向性を考える。	○　２年生が色々教えてくれた。去年、何をしていたのかが分かった。 ○　年長さんの頃は「１年生と遊んでたのしかった」と思っていたんだけれど、それだけじゃないみたい。もっと年長さんのことを考えているっていうか… ○　私も年長さんと仲よくなりたいし、年長さんが喜ぶようなことをしたい。
15	2　グループごとに交流についてのアイデアを考える。	○　年長さんと仲よくなるためにできることを考えるといいのかもしれない。年長さんがどんなことが好きなのか聞いて確かめた方がいいと思う。 ○　去年は、どんぐりとかのおもちゃを１年生がつくってくれて、それで遊んだよ。色々あってたのしかった。 ○　それいいかも！年長さんも喜んでくれるかもしれない。２年生は何回も何回もやり直して、工夫をしていたみたいだったよ。 ○　もうすぐ音楽会があるから、年長さんとも音楽のことってできないかな？いっしょに歌うとか。 ○　２月とか３月になったら、絶対、小学校のことを教えてあげた方がいいよ。学校のことを知らないと、年長さんが困るかもしれないから。 ○　どんな先生がいるんだよとか、どんな教室があるんだよとか、附属小のことを教えるといいかもしれない。
１０	3　話し合ったことを発表する。	○　ぼくが年長さんのときに、どんぐりとかのおもちゃで遊んでたのしかったから、年長さんにもやってあげたいです。喜んでもらえるようにたくさん工夫したいです。 ○　４月になったら年長さんは１年生になって入学するから、３月くらいに小学校のことを教えてあげたらいいと思います。そしたら、小学校のことが分からなかったり困ったりしないから。
１０	4　考えたことをノートに記入する。	○　最初は、幼稚園でいっぱい遊ぶんだと思っていたけれど、そうじゃなくて年長さんのことを考えたり仲よくなったりするためにするんだと思いました。 ○　年長さんの頃は、１年生といっしょに遊べる時間だと思っていたけれど、１年生は一生懸命考えていてくれたんだなと思いました。年長さんのために、私も頑張りたいです。

年長児と会うことをたのしみにしている子どもたちですが、交流についてはまだよく分かっていない状態です。昨年度、交流を経験した２年生が大事にしていたことや努力していたことを確かめることによって、自分たちがどのような交流にしたいかを明確にしながら、計画についてのアイデアを考えます。

主体的・対話的で深い学びを生み出す教師の支援（発問・指示・教具・評価）

○　附属幼稚園出身の子どもたちが話した内容やこれまでに自分たちが話した内容を取り上げて２年生の話と比べることによって、２年生の話との違いや共通点に気付くことができるようにする。

【教材・教具】
○　ドキュメンテーション
○　ノート

○　２年生から聞いた話の中で、繰り返し言われたことや大事だと言われたことは何だったのか尋ねることで、交流する上での大切な視点となるようにする。

○　半年後には自分たちは２年生になることや年長児は１年生になって入学することを踏まえた上で、年長児・１年生双方にとって、よさが感じられる交流にしていくことを確認する。その上で次の課題を設定する。

ねんちょうさんとすることをけいかくしよう

○　昨年度の交流の様子の写真を掲示しておいたり、２年生が使っていたノートを手に取れるようにしておいたりすることで、計画について考える際の手がかりとなるようにする。

【教材・教具】
○　２年生のノート
○　昨年度の交流の写真

○　グループをまわり、何をしたいと考えているのか理由を尋ねることで、年長児に対する思いや自分がどのような姿を目指しているか、子どもたちが自覚することができるようにする。

○　考えたことや気付いたこと、疑問等は適宜ノートに記入するようにし、話し合う際やもう一度考える際の手がかりとして活用できるようにする。そうすることで、グループで共有したり次時への課題として生かしたりすることができるようにする。

○　発表の際に、したいと思っていることだけでなくその理由を尋ねて板書することによって、どのような交流にしたいと考えているのかが分かるようにする。また、悩んでいるグループがある場合には、どんなことに難しさを感じているのか尋ねて全体へ投げかけることで、次時へつながるようにする。

○　振り返りに入る前に、この時間でどんなことを考えたのかグループごとに話す時間を取ることで、めあてにどれだけ近付いているかやさらに考えることが必要な点について目が向けられるようにし、これからやるべきことが明確になるようにする。

○　子どもたちの振り返りの中から、新しく出てきた考えややこれまでよりも深まった考えなどを取り上げ、これまでの子どもたちの発言と比較することで、交流に対する意識が変わってきていることを価値付ける。

【評価】
どのような交流にしたいかや年長児とどのように関わりたいかを考えた上で、交流についてのアイデアを考えている。
（発言・ノート）